

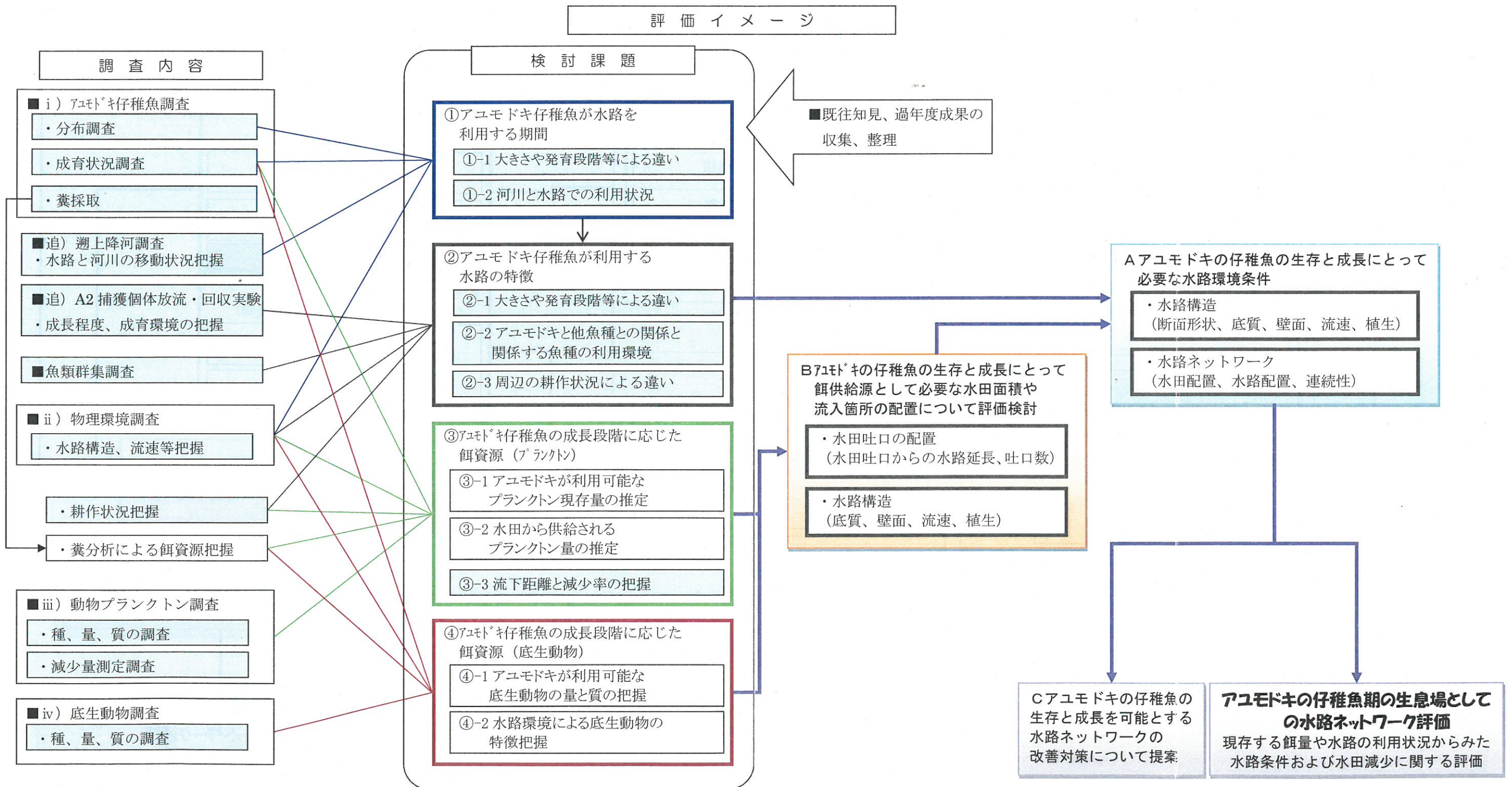
「アユモドキの仔稚魚期の生息場としての水路ネットワーク評価」の検討手順について

◆目的

調査対象区域では、アユモドキの繁殖・成長に不可欠な河川氾濫原・灌漑用農業堰・農業用排水路・水田が連続する水路ネットワークが存続している。現状の河川や農業用排水路は、仔稚魚の成育にとって必要な環境条件を備えていると考えられるが、公園整備事業に伴う水路の付け替えや接続する水田面積の減少が仔稚魚の生息環境に及ぼす影響を考慮する必要がある。

このため、本調査は、1) **A**アユモドキの仔稚魚の生存と成長にとって必要な水路環境条件ならびに **B**餌供給源として必要な水田面積や流入箇所について評価検討すること、ならびに 2) **C**アユモドキの仔稚魚の生存と成長を可能とする水路ネットワークの改善対策について提案することを目的とした調査である。

評価イメージ



■ 過年度成果、
既往知見
・ 過年度の調査結果、文献等収集整理

■ アユモドキ稚魚成育調査

◆ 第 23 回会議報告

- ・ 確認場所と個体数、時期、発育段階整理

◆ 第 23 回会議報告 課題) 過年度の確認位置も含めて検討

- ・ 構造や物理環境との関係性分析
- ・ 過年度の確認状況との比較

◆ 第 23 回会議報告 課題) 移動状況と日周活動を考察

- ・ 水路、河川の移動状況把握

◆ 第 23 回会議報告 課題) 再捕獲数が少なかった要因判断

- ・ 発育段階と生息環境

■ 遡上降河調査

■ A2 捕獲個体の放流・回収実験

■ 魚類調査 ◆ 第 23 回会議報告

- ・ 魚類の生息状況まとめ

◆ 第 23 回会議報告 課題) 関連性のある種の抽出

- ・ 経年確認状況、アユモドキと関連する種との比較

アユモドキ生息場の特徴把握

① アユモドキ稚魚が水路を利用する期間

- ・ 大きさや発育段階等による違い
- ・ 河川と水路での利用状況

② アユモドキ稚魚が利用する水路の特徴

- ・ 大きさや発育段階等による違い
- ・ アユモドキと関連する魚種の利用環境
- ・ 周辺の耕作状況による違い

■ 動物プランクトン調査 ◆ 第 23 回会議報告

- ・ 動物プランクトン同定分析

◆ 第 23 回会議報告 課題) 増減種の抽出

- ・ ○○水路での増減種の抽出
- ・ 水田や水路での増減種の把握
- ・ 流下距離と減少率の把握
- ・ □□・△△水路での種組成の把握

- ・ プランクトン量と水田耕作面積
- ・ プランクトン量と調査時の物理環境整理

- ・ 餌生物抽出と増減量の把握
- ・ 餌生物種の現存量把握
- ・ 餌生物種の量と水田耕作面積
- ・ 餌量と物理環境の関係性把握
- ・ 過年度のプランクトン量・餌量と、耕作面積との比較

■ 底生動物調査

- ・ 底生動物同定分析

- ・ 種組成および現存量の把握
- ・ 現存量と水田耕作面積
- ・ 調査時の物理環境整理

- ・ 餌生物種の抽出と現存量把握
- ・ 餌量と物理環境の関係性把握
- ・ 過年度の底生動物量・餌量と、耕作面積との比較

■ 糞分析による餌生物の把握 (6月、8月分：主にプランクトン)

■ 糞分析による餌生物の把握 (残り：主に底生動物)

③ 主に中干し期までのアユモドキ稚魚の餌資源 (プランクトン)

- ・ アユモドキが利用可能なプランクトン現存量の推定
- ・ 水田から供給されるプランクトン量の推定
- ・ 流下距離と減少率の把握

④ 主に中干し後のアユモドキ稚魚の餌資源 (底生動物)

- ・ アユモドキが利用可能な底生動物の量と質の把握
- ・ 水路環境による底生動物の特徴把握

B
アユモドキの稚魚の生存と成長にとって、餌供給源として必要な水田面積や流入箇所の配置について評価検討

A
アユモドキの稚魚の生存と成長にとって必要な水路環境条件の評価検討

C
アユモドキの稚魚の生存と成長を可能とする水路ネットワークの改善対策について提案

アユモドキの稚魚期の生息場としての水路ネットワーク評価
現存する餌量や水路の利用状況からみた水路条件および水田減少に関する評価

■ 本日の協議内容